土木学会
木コンクリ複合橋など選奨土木遺産19件発表

土木学会（池内幸司会長）は9月24日、2025年度の選奨土木遺産を発表した。北海道で独自に発展した木とコンクリートの複合橋である「木・直川橋」（北海道）、「屋形橋」（長崎県）、「三都井高架橋」（宮崎県）など、全国19件の土木関連施設が新たに選定された。このうち、護岸ブロック工法で建設された「戦後の道路開発を支えた土木遺産」として選定された「六供配水塔と旧ポンプ室」（熊本県）は、1934年、33年には、昭和初期にRC造で建設され、装飾性豊かなデザインから、「地域のランドマークとして貴重」として選定された。

木直川橋

納沙布岬灯台（後工1930年）は根室市において、北東航路の危険海域を示す船の指標として明治初期に設置され、のちに霧笛を併せ持つ方形・円形の複合RC構造に改修された。北方領土や南島島々除くと日本最東端の地に位置し、道内に現存する最古の灯台としても知られる。

屋形橋（後工1933年）は、施工例が少ない戦前期のRCタイドアーチ橋（アーチの両端を一つ一つ結んだ形式）であり、「現在も地域のランドマーク」となっている優美で貴重な土木遺産」と評された。

六供配水塔と旧ポンプ室

宇都井高架橋（後工1974年）は、特殊なジョイントを有するRC壁式多径間連続ラーメン高架橋。なお、「旧・宇都井駅」は開業当時、日本一の高さを誇る高架だった。

土木遺産は、「駅則」として後工後50年を経過した構造物を対象に、土木学会選奨土木遺産委員会が毎年20件程度選定しているが、00年の制度運用開始から25年が経過し、累計選定件数は550件に達した。

灰石協会
日本石灰協会
24年度出荷量は微増
排出量取引対象17社に

日本石灰協会（上田和男会長）調べによると2024年度国内石灰出荷量は微増となり3年ぶり3千トン（3・0%増）増の78万7千トンとなった。

24年度出荷量を用途別にみると鉄鋼用408万トン（4・1%増）、農業用15万9千トン（5・3%増）、その他16万9千トン（53・4%減）で増加した。製品別では生石灰609万千トン（2・3%増）、消石灰106万4千トン（1・3%減）、軽焼ドロマイト1万9千トン（3・4%増）、水酸化ドロマイト1万3千トン（3・6%増）。

（続けて）

（協会活動では3月の臨時総会において日本石灰工業組合の解散を決定し、日本石灰協会に一本化した。会員を対象にした技術大会を年1回開催しており昨年は名古屋で開催し、今年は10月23～24日に松山市で開催予定である。土壌改良用途は微増となり2・0%増の75万7千トンである。

24年度出荷量を用途別にみると鉄鋼用408万トン（4・1%増）、農業用15万9千トン（5・3%増）、その他16万9千トン（53・4%減）で増加した。

環境対策用58万5千トン（2・1%増）、建設用72万6千トン（3・0%増）、土壌改良用6万7千トン（6・6%減）、前年度比4・7%減の692万9千トンとなっており、会員各燃料転換を図っているものの、排出量削減は計画通りに進んでいない。24年は10月にフルウェーブのスロセで開催され、29カ国166人の参加を集め、日本からは16人が参加した。

経団連の第7回カーボンニュートラル環境自主行動計画（WAPEC）会場（基等）に対して10年間研究開発・実証から社会実装まで継続して支援する事業。CO2を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクトではCO2排出実績は前年度比5・6%減の160万2千トン。CO2となり、基準とする2013年度に対して35%削減した。24年度比24・6%減、前年度比4・7%減の692万9千トンとなっており、会員各燃料転換を図っているものの、排出量削減は計画通りに進んでいない。24年度比24・6%減、前年度比4・7%減の692万9千トンとなっており、会員各燃料転換を図っている。

大和紡績
CUCO® 事業に参画
合成繊維用い固定量増大

大和紡績は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「グリーンイノベーション基金事業・CO2を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト」に参画しており、同社の合成繊維をコンクリートに混和し、社会実装していくことを目標としている。

NEDOは、「2050年カーボンニュートラルの目標達成に向けて、NEDOに3兆円の基金を造成し、官民で野心的な目標を共有したうえで、取り組み企業に対して10年間研究開発・実証から社会実装まで継続して支援する事業。CO2を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクトではCO2排出実績は前年度比5・6%減の160万2千トン。CO2となり、基準とする2013年度に対して35%削減した。24年度比24・6%減、前年度比4・7%減の692万9千トンとなっており、会員各燃料転換を図っているものの、排出量削減は計画通りに進んでいない。24年は10月にフルウェーブのスロセで開催され、29カ国166人の参加を集め、日本からは16人が参加した。

国際活動では「ILA（国際石灰協会）に加盟し、年次の国際会合に出席している。24年は10月に対象となる石灰法17社が参加するプロジェクトを通じ経済産業省とベンチマーク策定について協議中である。

国際活動では「ILA（国際石灰協会）に加盟し、年次の国際会合に出席している。24年は10月にフルウェーブのスロセで開催され、29カ国166人の参加を集め、日本からは16人が参加した。

コン協会
生産部
全輸ト送
妹尾新部会長が就任
第51回部会総会開く

妹尾洋部会長

舎本トラック協会生コンクリート輸送部会は9月日、横浜市内の華正樓新館で第51回部会総会を開催し、2024年度事業報告（案）、25年度事業計画（案）など4議案を審議、すべて原案通り承認した。任期満了に伴う役員改選では、同総会をもって退任した小島信也前部会長に代わって妹尾洋副部会長が新たに部会長に就任、副部会長に川上雅彦・岡本尚也両氏が再任したほか、新たに高野誠氏（関東生コン）、高野誠氏（関東生コン）が2名の